

## こども園に自衛隊車両が登場 園児や地域の小学生が興味津々



自衛隊静岡地方協力本部藤枝地域事務所（所長・宝保竜平1等陸尉）は8月3日（木）、認定こども園すずき幼稚園（牧之原市）で行われた「島田・榛南地区子育てフェア」に参加した。

このイベントは、園児や地域の子どもたちに国や地域を守る仕事について理解を深めてもらおうとこども園が主催したもので、自衛隊・警察・消防が参加した。

藤枝所は陸自の中型トラックや陸・海・空の写真パネルを展示し、オリジナル缶バッジの配布も行った。

当日は園児や近隣の小学生、保護者など約300人が訪れ、炎天下で汗を流しながらも熱心に写真に見入ったり、楽しそうにトラックの荷台の座り心地を体験していた。

中には、トラックのタイヤを見て「大きい！何でこんなに大きいのか」と驚く子や、疑問に思ったことを率直に隊員に投げかけ、「将来自衛隊に入りたい」と目を輝かせて話す小学生の姿も見られた。

付き添いで訪れた保護者も子どもたちと一緒に車両やパネルなどを見学し、一層自衛隊への興味を深めていた。藤枝所は、今後も地域のイベント等に積極的に参加して自衛隊をアピールし、地域との交流を大切に励んでいく。

## 医師を目指して邁進中の防衛医大生が恩師に再会

自衛隊静岡地方協力本部袋井地域事務所（所長・菊池雅也1等空尉）は8月9日（水）、静岡県立掛川西高等学校（掛川市）で防衛医科大学校生の母校訪問を行った。

これは、学生が教職員や後輩に防衛医科大学校（防衛医大）の様子や魅力などを伝え、認識と理解を深めてもらうと行ったもの。今春、防衛医大に入校した酒井大樹学生と掛川市担当広報官の箕輪勝政1等空曹が同校を訪れた。

酒井学生は同校を卒業後、国立大学に入学したものの、医師になるという夢を追って在学中に防衛医大を受験し、今年度晴れて医師への第一歩を踏み出した。

約3年4カ月ぶりに母校の正門をくぐった酒井学生は、進路課長の儀部典秀教諭と当時の担任だった鈴木和恵教諭と再会した。

最初は生活環境の違いに苦労したが1カ月ほどで慣れ、先輩や同期とも絆が生まれ楽しく過ごしていること、入ってみると自衛隊のイメージとは違い自由もあり、週末は外泊もできることなど現在の学生生活について笑顔で話し、「生活費や授業料がかららず給与も支給されるので、家族への負担がないことも大きなメリット」と防衛医大の魅力を語った。

話を聞いた教諭は「酒井君は別の大学に通いながら夢である医師を目指して受験勉強し、防衛医大に入校したと聞いた。医師を目指するための素晴らしい環境であることがわかった」と感想を話し、「まだ先だが、卒業して医師になったら制服姿で訪問してほしい」と期待を込めた。

酒井学生も「自衛隊や防衛医大の魅力を伝えられて良かった。後輩もどんどん受験してほしい。次は制服姿で訪問したい」と嬉しそうに話していた。

袋井所は、今後も学校訪問などを積極的に実施して、自衛隊に対する認識と理解の向上に全力を尽くしていく。

